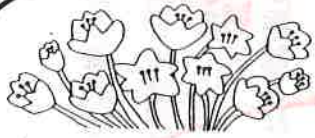


イラス・ド・フルール オープン



〈 花 の 広 場 〉

希望に向かって

喫茶「フラス・ド・フルール」



平成十八年一月十九日

「よみうりランド愛と

光の事業団」のバック

アップのもと、はぐる

まの会運営の喫茶室

がオープンしました。

雪の降る一月二十日

「花ハウス通信」(特養

発行)第2号が発行

され、一面の記事見

出しは「花の広場が

オープン」の大見出し

記事の内容を一部紹介します。

特別養護老人ホームよみうりランド「花ハ

ウス」の地域交流スペースに、しゃれた喫

茶店「フラス・ド・フルール」が開店しま

した。ご利用者や、ご家族、地域の方々、

それに職員がくつろぎながら、おしゃべり

を楽しめる場所。毎週金曜日と土曜日の週

二回、午前十一時から三時まで同店・・・

と紹介され、日曜日の営業ができるように

応援をよろしく。と記事を結んでいます。

かつて長野県信濃大町の特別養護老人ホ

ームの取材に行ったことを思い出しました。

NO.18

2006年 / 月27日

社会福祉法人

はぐるまの会

広報委員会

後援会

川崎市多摩区菅馬場

1-18-17

TEL 044-946-1308

利用者さんの一番の楽しみは、お風呂と食事。毎月一回全国各地から運ばれた郷土料理が出され、温泉にも入れるとのこと。温泉に行きたくてもなかなかみんなで行けないことから、スタッフが市販の入浴剤、登別の湯とか、阿蘇の湯を使い、温泉気分になり、夕食には北海道の「いかめし」等々、毎月一回は旅行した気分になれる。利用者の方たちの要望も取り入れながらの一年間。それぞれがとても楽しみと話す。入浴剤の選定もその内容、特に透明度のチェック、湯の深度が解らない濁り湯は、入るときに危険が伴うので透明度の高いものを選ぶ。ハンディキャップを持っている方々の配慮は欠かさない。入浴後の食卓では、行った

ことのある温泉地のことや、郷土食や、昔食べた料理に話が盛り上がる。

地域交流スペースとして「はぐるまの会」に運営が委託されたことは、「花ハウス」利用者の方々の、近隣地域の方々、関係者にとって、金曜日と土曜日の開店が待ち遠しく、楽しみなスペースとして期待に込めると共に、きめ細やかな施設への配慮と、工夫をして拠点作りを進めていく必要性を痛感させられる。

花ハウス入り口には、草月流師範理事の石倉さんのオブジェや、生け花が飾られ、心和む空間は「プラス・ド・フルール」ができたことで、「はぐるま」が培ってきたノウハウを展開できる事業として、位置づけられることが期待されます。

今後この喫茶店は、単にコーヒーが飲めるということだけでなく、「花ハウス」関係の皆さんと共に、心安らぐ動態空間を共有していくことでしょう。

(記者の目)



協力者より寄付のパッチワーク



オープン当日

支援の会を行いました



只今研修中

担当紹介

蛭海 涼 (あおばホーム 職員) 金曜日担当

・喫茶店勤務経験有り、しゃれたシテイボーイ風・マスターの風貌バツグン

岩田かつの (第二作業所職員) 土曜日担当

・はぐるまのベストドレッサー・センス抜群・コーヒーのたてかた研修中

横渡 潤 バックアップ

・トランサイドコーヒー店経営

こだわりのコーヒー店主 喫茶店運営のノウハウを伝授していただきます。

このメンバーを軸に、はぐるまの職員がボランティアで分担して入ります。

今後の展開について

三月までは職員と仲間自治会で基本的なことを考える期間とします。

- ・ どんな仕事があるのか
- ・ 服装はどうするか
- ・ 室内装飾をどうするか
- ・ 自主製品や販売の品物は何がいいか
- ・ お客さんの接待の仕方
- ・ 会計の学習 等

本格的に仲間が運営に携わるまで、様々な学習をしていきます。

新春マラソン大会

全員完走おめでとう

一月八日・会場の古市場グラウンドは、暖かい冬の光が降りそそぐ絶好のマラソン日和。例年のはぐるまマラソンは、はぐるま内の行事として実施してきましたが、今年度は何千人もの市民ランナーと共に走る、新春

マラソンに参加することにしました。

日課となつている朝のマラソンタイムで、常に4〜6キロ走ることでの体力の維持・向上に努めている、総仕上げとなるマラソン大会。毎年さまざまな発見をしますが、今年度は、「**一人でもやり切れる、強い意志**」を仲間の中に見ることができました。

十キロを走る間、苦しいとき、やめたくなる時が必ずありますが、仲間がいなくても、もくもくと走り続ける仲間の姿がありました。一般ランナーの中に自分のペースにあった人を見つけてペースメーカーとし、一緒に走っている仲間をみつけた時、長年仲間と共に走ってきた経験が、生かされているのだな—と思いました。

また最終の仲間をゴールした仲間が追いつけず、一緒にゴールする姿は、はぐるま名物といったところでしょうか。

初めて参加した仲間は、たくさんランナーに囲まれて、気分が高揚し、いい顔でゴールができました。

「**一人でもやり切れる、強い意志**」は、

仲間同士で切磋琢磨して培ってきた力だと実感した今年度のマラソン大会でした。

この力をはぐるまの将来に向けて、発揮し活力ある仲間たちであってほしいと願います。



準備はOK サー—くぞ—



ウォーキングだって10キロだ！



速そうオーラがすでに出てる

障害者自立支援法の今

各家庭に申請書が届き、すでに申請を済ませられた方もあります。解らないことや、心配なことがいくつか支援センターに寄せられていますので、そのつどセンター職員が対応に当り、申請がスムーズに行くよう支援しています。詳しいことは、「支援センター便り」でお知らせします。

さてもう一方では、施設再編成の大問題も控えているのですが、詳しい情報はこれからといったところです。

法人事業推進委員会では

はぐるまの現状を分析し、今後の施設運営に何が必要かを確認する作業が進んでいます。

職員会では

施設再編成に向けて、変化する仲間の現状や労働の見直しを進めようとしています。

今後の予定

障害程度区分認定の資料が届いています。支援センター職員を中心に、仲間個々の認定調査が始まります。正式な調査書が届くころには、申請の仕方や決定までの流れ等の説明会を開催しますので、お知らせいたします。

「はぐるまの会後援会」情報

只今後援会のパンフレットを、関係者に配布中。少しづつ会員になっていただけの方の振込みが始まりましたが、まだ隅々までパンフレットが回っていません。ためか、途中報告が会計からありましたがあまり出足はかんばしくありません。

改めてまだ配布されていない所を見直し、早急に対応していきます。皆様のご協力よろしくお願いいたします。

尚 第二回後援会役員会が、二月に予定されています。その後詳しく広報にて状況をお知らせします。